

2025社会学研究所報告会報告書

(2025年7月17日)

開催日時	2025年7月17日（木） 16:30～18:00
開催場所	板橋キャンパス3号館1階 113教室
出席者	スチュワート、塚本、佐藤、豊泉、小湊、井島、八木原、飯塚、鶴田、疋田、小野田、上地、神部、野嶋（14名）
会議概要	＜2025年度＞社会学研究所主催 第2回 報告者 野嶋剛
内 容	今年度第2回は、自転車とツーリズム・まちづくり研究会より、野嶋氏によって、「台北サイクルショー（2025.3）の調査から見たシェアサイクル普及の日台格差」について報告された。本報告会では、「台湾のシェアサイクル問題のアップデート」について日台比較の報告であった。 台湾は現在でも「交通戦争」状態にあり、バイクや自動車から公共交通機関への「モビリティシフト」にシェアサイクルを活用しようとしているという。台湾には「YouBike」というシェアサイクルがあり、年々延べ利用率が向上しており、人口カバー率は81%に上る。YouBikeを運営するG I A N T のボニー・トゥー会長は、シェアサイクルには、行政参加が成功の鍵であることを示している。高雄市の事例が報告された。高雄市は、YouBikeにかかる契約金日本円で約3億7千万円とモビリティ切替え予算として日本円で約3億円弱の費用は「駐車場管理作業基金」（公営パーキング）から支出されており、交通行政の一環として車両使用者が支払うコストを自転車のモビリティシフトに活用していることが示された。台湾は、行政が制度設計を行い、事業者がハード提供を行うという役割が担われ成果を挙げている。 日本においては、自転車台数は台湾より少なく、ポート数は多い状況であるが、シェアサイクルは途上にあり、規模と計画的な配置が課題であると示された。行政のコスト負担は低く事業の規模感が小さく、「実験段階」を20年以上続けている印象があると示された。観光地ではなく日常でのシェアサイクルは実現していない。 質疑応答では、台湾での自転車が走る道路や舗道について、シェアサイクルには電動自転車やキックボードはあるのか、ヘルメット着用義務などについて質問があがり、ヨーロッパの事情などを含め議論が展開された。
備 考	次回は、2025年9月25日（木）16:30ー



